

(政務活動費用)

(様式1)

出張報告書

令和8年7月24日

釧路市議会議長 様

会派名 日本共産党議員団

代表者名 梅津 則之



次のとおり、政務活動費による出張を終えましたので報告します。

受 命 者	西村 雅人
出 張 先	大阪市
期 間	令和8年7月11日 ～ 令和8年7月13日（3日間）
用 務	第68回自治体学校 i n 大阪に参加のため
調査（研修） 結果等の概要	別紙の通り
備 考	7月12日の終了時刻が午後3時30分のため、東京までは戻れたが、そこから先は帰れず後泊を要した。

- 注) 1 資料等がある場合、添付すること。資料は、事務局経由で会派へ返却するので、本出張報告書（原本）とともに会派で保管すること。
- 2 調査結果等の概要は、別紙による記載も認める。

報告書

第68回自治体学校 in 大阪
令和8年7月24日

日本共産党議員団 西村 雅人

2026年7月11、12日、第68回自治体学校 in 大阪が大阪市内で開催され、現地で参加してきたので、以下報告する。

1日目は中山徹・奈良女子大学名誉教授による基調講演が「地方自治と地域この1年から考える」というテーマで行われた。しかし私は前日まで会派行政視察が入っていたため、大阪に前泊ができず、当日朝釧路を発ったため講演を聞くことができなかった。

次の記念講演は、畠山澄子・ピースボート共同代表による「世界とつながり、行動する:ピースボートの取り組みから」が行われた。畠山さんは、HBCサンデーモーニングのコメンテーターを務めるなど様々な活動をされている。戦争と平和についてお話をされていたが、最後の5分程度しか聞けず、残念ながら詳しい報告は出来かねる。

その後は、リレートーク地域と自治体最前線が行われた。ここでは3つのテーマでトークが行われた。最初は「忠岡町での巨大産廃誘致計画撤回を求める住民運動と民主市政の課題」だった。この度忠岡町になられた是枝綾子(日本共産党元町議)さんが、どうして自分が町長に当選できたのか紹介をした。その後、忠岡町の巨大産廃焼却施設の誘致を考える会の高迫(こうさか)千代司・事務局長が、産廃施設反対の住民運動の取り組みについて報告した。

2つ目のテーマ「生活保護を担う職場からの報告」で、京都市下京福祉事務所の森下千鶴子・ケースワーカーが報告した。現業を行う職員(=ケースワーカー)と査察指導員は社会福祉主事でないといけないことが原則だが、実際はそうになってない。被保護世帯の生活状況では以下の内容が紹介された。

- ・1か月の被服費0円が約半数
- ・1か月の娯楽費0円が約半数
- ・1日の食事回数2回以下が3割以上
- ・エアコンがあってもつけない
- ・暖房はつけずマイナス24度まで耐えられる寝袋に入って寝る
- ・外とのつながりが無い。外に出たいけど、お金がないので出られない
- ・日本に生まれてよかったと思える国にしてほしい
- ・節約のため、入浴回数を減らしている
- ・楽しみがもてない

最後に保護費の大幅引き上げをもとめつつ、不祥事が起こる前に改善策を講じて

ほしい、中でもケースワーカーの配置数、査察指導員配置数の改善は急務、事務効率化の結果としての職員数の削減をやめるべし、外部に開かれた職場づくりの必要性を認識すべき、などの提言が紹介された。

リレートーク3つ目は「陸上自衛隊祝園分屯地での弾薬庫新設に反対する運動」で、平和憲法を守り生かす京都共同センター代表委員／京都地方労働組合総評議会の梶川憲議長が講演した。サブタイトルは『戦争しに行く京都』の危険と私たちのたたかいで、京丹後市経が岬の米軍 X バンドレーダー基地の強化について報告した。レーダー基地として、ミサイル防衛の目の役割を担い、迎撃と反撃の情報を統合司令部に提供することを目的としている。京都府民の安全は度外視され、逆に目となるレーダー基地が先に攻撃を受けたり報復攻撃の的になる危険性について言及があった。このような現状に対し、住民と一緒に声をあげていくことが重要と述べられた。例えば、京丹後市経が岬の米軍レーダー基地と祝園弾薬庫、イージス艦の出撃拠点の会場自衛隊舞鶴基地の3つの地元地域での住民運動と集会づくりを行っている。他にもトマホーク配備反対の祝園・舞鶴2つの署名と改憲反対の署名をセットにして住民対話を継続していることなどがある。暮らしと両立しえない「戦争しに行く京都」に対して、住民運動として、リアルに声をあげること、自治体の役割と真逆の戦争体制から住民を守る役割が今こそ重要と結んだ。



1日目の全体会終了後、夜の自主交流会にも参加した。テーマは「原発再稼働と住民の安全：各地から考える自治体の課題」で、5人から報告を受けた。

報告1 5600日 15年目の福島 見える復興と見えない現実

京都自治体問題研究所 池田豊さん

報告2 柏崎刈羽原発再稼働と新潟県民のたたかい

にいがた自治体研究所 大矢健吉さん

報告3 中部電力「データ捏造」問題から見てきたこと

静岡県地方自治研究所 酒井政和さん

報告4 日本原子力発電(株)東海第二原発 再稼働を止めるたたかい

茨城県議会議員 江尻加那さん

報告5 滋賀県における原発裁判の状況と自治体の原発への対応

滋賀県自治体問題研究所 瓜生 昌弘さん

この交流会の趣旨は以下の通りである。

国は福島原発事故の教訓を無視し、再稼働や運転延長を強行している。一方で浜岡原発の地震データ不正操作が発覚するなど、企業の倫理欠如と安全性の形骸化は深刻である。最終処分場問題も迷走する中、'23年の岡山での議論を踏まえ、各地の原発の問題に対する住民運動を交流し、改めて住民の命を守る自治体の役割を考える。



2日目は分科会が行われた。私は現地分科会「これが夢洲カジノだ！」に参加した。現地視察に先立ち、NGO おおさか市民ネットワーク代表／大阪自治体問題研究所の藤永のぶよさんが助言者として、「大阪狂わす維新の夢洲開発と副首都願望～捨て石の万博・揺れ揺れ動くIR・カジノ～」というテーマで報告した。埋立実態を無視し強行した結果の万博、IR カジノ計画は、軟弱・汚染土壌の改良に多額の資金がかかり、技術面でも手こずっている。大阪でのカジノ誘致と反対運動、カジノの危険性、住民訴訟などについて詳しい解説があった。



午後からはバスにのって、夢洲、咲州の視察を行った。万博の残置物がまだ残っていた。万博会期中はあれだけの人が訪れていたのに、今は歩いている人はいなかった。夢洲のIR・カジノは旧来のリアルホテル型計画だが、コロナ禍以来オンラインカジノが増えている。警察庁の調査では日本人の337万人が経験し、圧倒的に20、30代の若者で、うち46%が借金まみれになっている。大阪府警は「オンラインカジノは違法です」と取り締まりを強化。その責任者の知事が、「カジノに奔走」している矛盾が感じられた。カジノを中心とした観光施設には大きな問題が起きるであろう。



以上

第 68 回自治体学校 in 大阪 日程

7月11日(土)全体会 会場:大阪市中心公会堂

- 12:00 開場
- 13:00 開校 司会:田中あやめ(大阪平和委員会)
司会:川淵政樹(吹田市職員労働組合)
- 13:05 開校挨拶 鶴田廣巳(自治体学校学校長/関西大学名誉教授)
- 13:10 現地実行委員長挨拶 梶 哲教(大阪学院大学准教授)
- 13:15 基調講演「地方自治と地域 この1年から考える」
中山 徹(自治体問題研究所理事長/奈良女子大学名誉教授)
- 14:30 休憩
- 14:50 記念講演「世界とつながり、行動する:ピースボートの取り組みから」 畠山澄子(ピースボート共同代表)
- 15:50 休憩
- 16:00 リレートーク「地域と自治体 最前線」
①「忠岡町での巨大産廃誘致計画撤回求める住民運動と民主市政の課題」 是枝綾子(忠岡町長)
高迫千代司(忠岡町の巨大産廃焼却施設の誘致を考える会事務局長)
②「生活保護を担う職場からの報告」 森下千鶴子
(京都市下京福祉事務所生活保護ケースワーカー)
③「陸上自衛隊祝園分屯地での弾薬庫新設に反対する運動」
梶川 憲(平和憲法を守り生かす京都共同センター代表委員/京都地方労働組合総評議会議長)
- 16:45 次回開催地代表挨拶 太田 正(とちぎ地域・自治研究所理事長)
- 16:50 全体会閉会挨拶 吉田佳弘(自治体学校実行委員長)
- 17:00 1日目全体会終了
- ★17:40 夜の自主交流会 会場:大阪グリーン会館2階大会議室
「原発再稼働と住民の安全:各地から考える自治体の課題」

7月12日(日)分科会・講座

- 1 分科会・講座 9:30 開場 10:00~16:00 分科会・講座
会場:エル・おおさか(大阪府立労働センター)/大阪グリーン会館/国労大阪会館
- 2 現地分科会 A「これが夢洲カジノだ!」
9:45 ATC(アジア太平洋トレードセンター)B1 会議室集合
- 3 現地分科会 B「多文化共生の歴史とまちのあり方を考える」
9:30 大阪市労組組合事務所集合

憲法が危ない 地方自治こそ**未来**の希望

第 68 回

自治体学校

in 大阪 

みんなが先生 みんなが生徒



大阪市中央公会堂(国指定重要文化財) ©(公財)大阪観光局

日時：2026 年 7 月 11 日（土）・12 日（日）

会場：大阪市中央公会堂／大阪グリーン会館
国労大阪会館／エル・おおさか（大阪府立労働センター）

主催：第 68 回自治体学校実行委員会

[illegible]